



聖徒のための情報誌

今月号の内容

- 新聞智雄会長のご挨拶(1面)
- 島根県出雲市法恩寺お会式法要
- 九州布教区研修会(2面)
- 新年のご挨拶(3・4面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道
- 法華経のお話・聖徒の声(5面)
- よろこび法話(6面)

平成26年(2014年)1月1日(水) 1月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

日蓮宗霊断師会 会長
東京都新宿区感通寺聖徒団团长
新聞 智雄

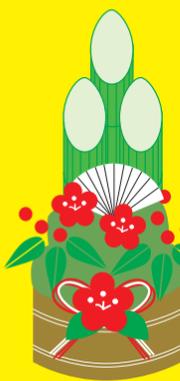


当会員と聖徒の皆様、あけましておめでとうございます。今年も皆様と御題目をお唱えし、法華経を誦し、俱生神月守をしつかりと持つて、御本仏・釈尊・日蓮大聖人と一体となり、「明るく・元気に・心豊かに」過ごしましょう。

さて現在は、世界中も日本も地震や台風、水害などの災害が身近なものになってしまいました。日蓮大聖人が立正安国論にお示し下された如く、「世界は今、身も心も不安となり、天変地妖が続き、息つく間もない毎日です。しかし、大聖人の弟子・檀那である聖徒の皆様は、この中であって、しつかりと信仰を持ち、御守を心身の守りとして毎日を送ることが大切です。

今、年頭に当たり、自分の人生を振り返ってみれば、若い頃、生活の為、社会の為に必死に生きていた時は、目指すことの半分どころか、全くかなうことのない結果に思い悩み、世間をうらみ、神仏に不満を唱えていた自分を思い出します。しかし、私も七十の歳を越えて、今迄たどってきた色々の事柄を思い返してみれば、いかに多くの皆様に御やつかいになっていったのかと、つくづく感じる今日この頃です。お世話になり、導いて下さいました先輩の

新年の御挨拶と 会の抱負



御上人様方、柔道関係の皆様、その他御檀家の皆様等々、今は、ただただ感謝の頭を下げるのみです。今年も、元気の歳です。体を大切に元気でいて下さい。体が元気でいると何でも楽しめる人生になります。御題目に全てをまかせて、今年も頑張りましょう。

日蓮宗霊断師会 総局長
大分県中津市真浄寺聖徒団团长
建 光行



新年おめでとうございます。今年も聖徒団活動にご支援下さいますようお願い申し上げます。

お祖師様(日蓮大聖人様)は身延山で「春の初めのお慶び」とお正月を祝っておられます。

私達は日々の生活がマンネリ化して面白くないとか良く聞きますが、生活がマンネリ化することは、自分の心の持ちようにあると思われま

す。「当たり前のことを当たり前に行う」事はマンネリ化のよう感じますが、「当たり前」のことに「当たり前に行い」続けることの中に気づくものがあります。

私たちは十方分身(あらゆる場所から)本佛の御心をこの身に分けて「この世に生き佛として散体して生きる為」に生命活動をしております

から、食事を取ります。またトイレや睡眠、目覚めることも「当たり前」のように行っています。もし食事が美味しくなくなったり、排便に苦勞したりするようになると、身体の変調に気づくようになります。

このように「当たり前のことを当たり前に行う」ことの中に有難いと感謝せずにおれないことがあることに気がきます。

私達は毎朝毎晩、大曼荼羅御本尊(私達の御親)、お祖師様、ご先祖様に炊き上がったお佛飯・お茶等をお供えし、お給仕を申し上げております。そして、身心を整えて御経を誦し、御題目をお唱えする日々の唱題修行を「当たり前」のことに「当たり前に行う」ことにより、自然に信心に目覚めることができるのです。

昨年、夏休み中の八月二十六日から三十日、第二十九回沙弥校(小学校二年生)・中学三年生までのお坊さんのおたまたま(ご参加)が東京感通寺様において開催されました。その沙弥校の様子「よろこび10月号」に掲載されました。購読されている皆様はお読みになられた事でしょう。私が感心したのは、ある中学生が「下級生は僕より小さいのにしつかりしていて逆に見習うところもありました。」と、何事もお世話になったり手本になったりする大切さ、しつかり気づき、お互いが主伴となつて物事に関わることを、沙弥校生活の中でしつかり心得ていることでした。

聖徒の皆様、お友達の中に未だお題目の信仰にご縁のない方を皆さんのような地涌の菩薩(信仰者)へとお誘い下さい。

そして、毎月の盛運祈願会に参拝し、信心に目覚め、幸せな人生へと好転されることを願っております。

信心の早道は、俱生神月守を身に付け、大曼荼羅御本尊に御経を誦し、『南無妙法蓮華経』と唱題修行に励むことから始まります。

『南無妙法蓮華経』の道を持ち・行い・護り・弘める「当たり前」のことに「当たり前に行う」ことが真の信仰生活なのです。

日蓮宗霊断師会 総合研究所所長
栃木県佐野市本山妙顕寺聖徒団团长
齋藤 朋久



新春のおよろこびを申し上げます。

本年は日本も長い経済、政治等に於ける低迷の時期を抜け、明るい未来を予見する兆しが見られます。二千二十年の東京オリンピック開催も決定し、東北震災、原発事故を克服して行きつつあり、世界に日本の善きものを広めてゆくべき時期が来たのでしよう。世界の国々は皆夫々の宗教、思想を持って運営されていますが、未だ侵略主義的な言動を取り近隣諸国に脅威を与えたりする国がある一方、日本は、他国の飢餓の救済や、教育、産業技術の進歩のために貢献しています。

世界が平和にならなければ、人類の幸福はありません。

日蓮大聖人は『教機時国抄』に、「国には寒国・熱国・貧国・富国・中国・辺国・大國・小國、一向偷盜国(どろぼう)・一向殺生国・一向不孝国等これ有り。また一向小乗の國・一向大乘の國・大小兼学の國もこれ有り。」

いろいろな国があるけれども、日本国については「日本国は一向に大乘の國なり。大乘の中にも法華経の國たるべきなり。」と法華経精神の國とお示しです。

この法華経精神の國、日本国の私たちは法華経の祈り、悟り、行いの三大秘法の信仰を以て、自らの心、家庭、国家、世界に平和な浄土を実現して行かなければなりません。

日蓮大聖人の仏教は、立正安国、理想実現の宗教です。まずは皆様の家庭の円満と発展をお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

この法華経精神の國、日本国の私たちは法華経の祈り、悟り、行いの三大秘法の信仰を以て、自らの心、家庭、国家、世界に平和な浄土を実現して行かなければなりません。

日蓮大聖人の仏教は、立正安国、理想実現の宗教です。まずは皆様の家庭の円満と発展をお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

津軽宇田山 閻法寺



1月16日 午前9時半より
「正月御本尊祭」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」

〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 熊田ひとみ



旭川FMリバーFMラジオ 83.7MHz
「マダムケロのちよと長話」
1月14日、21日午前11時より
「閻魔大出演中」
インターネットでも聞くことができます
サイマルラジオから
旭川FMリバーFMをクリック

1月1日(水) 午前0時 元朝参り
1月5日(日) 午前11時 年頭会
毎月1日午前10時 盛運祈願会

妙正寺聖徒団 团长 関 龍雄
〒071-1423
北海道川上郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび



美濃乃國
常唱寺 聖徒団

〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙顕寺



天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!

●郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙顕寺建設委員会

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

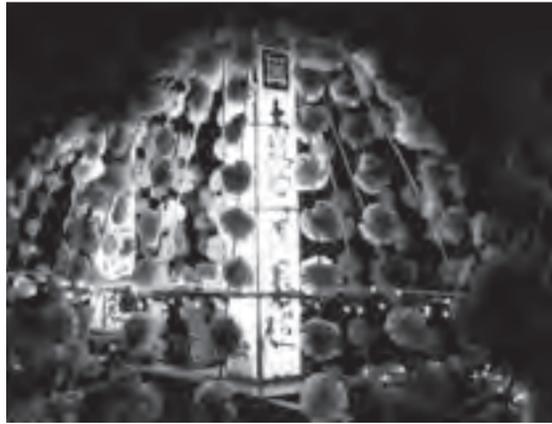
日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団团长
新聞 智雄

〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

島根県出雲市法恩寺において 日蓮大聖人の七三二回のお会式法要厳修

去る十一月七日、八日、島根県出雲市法恩寺(橘亮秀団長・橘亮光副団長)において、日蓮大聖人の七三二回のお会式法要が行われた。

島根県では唯一の万灯行列がある同寺では、七日は逮夜として、朝から檀



万灯行列

信徒が集まり、万灯の作成、本堂の飾り付けなどの準備を行い、夜六時半より行われた万灯行列では、大聖人への報恩感謝のうちわ太鼓を打ち鳴らしながら、市内を唱題行脚した。

引きつづき厳修された「逮夜法要」では、今年で連続七年目となる吉田亮善講師(本会副会長)による高座説教が行われ、毎年変わるくり弁と法話に、檀信徒一同、感激のひと時をすごした。

この後、同寺では「風誦文供養」が夜十一時まで続けられ、丸一日をかけて大聖人へご報恩のまことを捧げた。

翌八日は、十時より「正法法要」と、島根県宗務所長・蔵本知宏講師(本会指導局研修部長)による法話が行われたが、この式上、檀家総代として五十年に亘り、法恩寺の外護丹精に尽くさ



吉田亮善講師(本会副会長)による高座説教

れ、この度めでたく筆頭総代を勇退された中濱柳三氏に宗務総長表彰が授与された。

中濱氏は、これまでの法恩寺との思い出を涙ながらに語り、同寺のさらなる発展のために一致団結していくよう檀信徒に願い、両二日に亘り開催されたお会式は無事円成した。

「九州布教区研修会」を開催

十一月二十六日から二十七日、「九州布教区研修会」が大分県別府市・ホテル望海を会場に一泊二日の日程で開催された。

この研修会は、九州布教区の霊断師会が教学・霊断法の研鑽を積む為に初めて企画したものであり、開催担当県である大分県霊断師会はもとより、福岡県、宮崎県霊断師会より十名の霊断師が参加した。

一日目は教学を勉強し、石黒泰良講師(総合研究所・九識霊断法研究部長)

による講義を受講。二日目は同講師による霊断法研修を行い、その後、参加者による霊断法実習が行われた。

当研修会には本年度の「霊断師養成講習会」を修了し、新霊断師となった二名も参加しており、積極的に実習に挑戦、納得のいくまで質問する等、白熱した研修会となった。

参加者からは「大変分かり易く、有意義な研修会でした。久しぶりの研修会参加でしたが、自分の霊断法を錆びつかせないよう、研修会で【磨いて】おくことがやはり大切ですね。」との感想も寄せられる、実りある研修会であった。

日蓮宗霊断師会 第四十九回全国結集身延大会



新春を迎えられ、皆様には、お変わりなく日々ご精進の事と存じます。

本年五月二十日・二十一日に開催されます「第四十九回全国結集身延大会」。先日、大会

会場となる日蓮宗総本山身延山久遠寺・日蓮大聖人のお墓(祖廟)・身延山商店会へ大会開催のご挨拶に参りました。

身延山では足腰に自信が無い方も平等にご参加いただけるよう、エレベーター等、全山がバリアフリー化されております。また現在、当会でも身延山当局・商店会のご協力を仰ぎ、皆様をサポートする準備が整っております。

皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。



日蓮宗霊断師会

- | | | | | | |
|--------|-------|-------|------------|-----------|-------|
| 名誉会長 | 芝崎 惠璋 | ●伝道局 | 伝道局長 | 濱田 壽教 | |
| 終身名誉顧問 | 野澤 文立 | 副会長 | 聖徒部長 | 吉田 憲由 | |
| 会長 | 新聞 智雄 | 副会長 | 布教部長 | 飛鳥 玄龍 | |
| 同 | 末吉 観道 | 同 | 伝道局局長 | 瀬川 観常 | |
| 同 | 吉田 亮善 | 同 | 同 | 三ヶ尻和生 | |
| 同 | 大塩 孝信 | 同 | 同 | 梅木 功健 | |
| ●総局 | 総局長 | 建 光行 | 同 | 志村 龍寛 | |
| ●総務局 | 総務局長 | 松尾 義隆 | ●教宣局 | 教宣局長 | 松本 惠昌 |
| 同 | 同 | 工藤 堯顯 | 同 | 教宣局局長 | 後藤 正軌 |
| 同 | 同 | 阿部 是眞 | ●総合研究所 | 所 長 | 齊藤 朋久 |
| 同 | 同 | 光枝 妙珠 | 同 | 副 所 長 | 三浦 恵伸 |
| ●組織局 | 組織局長 | 天野 行淳 | ●新日蓮教学研究部長 | 新日蓮教学研究部長 | 小泉 輝泰 |
| 同 | 組織部長 | 三木 一乗 | ●九識霊断法研究部長 | 九識霊断法研究部長 | 石黒 泰良 |
| 同 | 事業部長 | 大森 映孝 | ●教育部長 | 教育部長 | 廣田 学良 |
| 同 | 組織局局長 | 阪口 映徳 | ●主任(教研部) | 主任(教研部) | 塩入 幹丈 |
| 同 | 同 | 伊藤 秀温 | ●主任(霊研部) | 主任(霊研部) | 松森 孝雄 |
| ●指導局 | 指導局長 | 戸田 教栄 | 同 | 同 | 新間 信應 |
| 同 | 指導部長 | 品田 祥皓 | ●主任(教育部) | 主任(教育部) | 工藤 堯慎 |
| 同 | 講師部長 | 飯盛 義教 | 同 | 同 | 蘆田 惠教 |
| 同 | 研修部長 | 蔵本 知宏 | | | |
| 同 | 指導局局長 | 田平 義成 | | | |





日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団团长

新聞 智雄
副团长

新聞 正興

〒二六二〇〇四四
東京都新宿区喜久井町三九
TEL〇三三三〇九一八七八二
FAX〇三三三〇八七九六六

日蓮宗霊断師会副会長
利生寺聖徒団团长

末吉 観道
副团长

末吉 正道

〒九三〇〇〇五五
富山県富山市梅沢町三一六一〇
TEL〇七六一四二二一八七七六
FAX〇七六一四二二一八二五〇

日蓮宗霊断師会副会長
妙本寺福德聖徒団团长

吉田 亮善

〒六九一〇〇四二
島根県出雲市十六島町二五二二
TEL〇八五三一六六〇五六八

日蓮宗霊断師会副会長
日蓮宗宗会議員同心会幹事長
正蓮寺聖徒団团长

大塩 孝信

〒二九〇〇一五二
千葉県市原市瀬又一三四一
TEL〇四三六一五二一〇二〇七
FAX〇四三六一五二二二八八

日蓮宗霊断師会理事会議長
日蓮宗常任布教師

讃岐 大玄

〒七九四〇〇一六
愛媛県今治市中浜町四一拾八
TEL〇八九八一三二二二四七
FAX〇八九八一三二二八三九

日蓮宗霊断師会理事会議副議長
圓立寺聖徒団团长

近藤 潮賢

〒四六六〇八一四
愛知県名古屋市中区妙見町一〇五七
TEL〇五二一八三二一九八二八
FAX兼用

日蓮宗霊断師会総局長
真浄寺聖徒団团长

建 光行

〒八七一〇七一六
大分県中津市山国町中摩六三一五
TEL〇九七九一六二二七三六
FAX兼用

日蓮宗霊断師会総合研究所長
本山妙顕寺聖徒団团长

齊藤 日軌

〒三三七〇八四三
栃木県佐野市堀米町二六四
TEL〇二八三三三二一五二四
FAX〇二八三三三二四一九四

仙寿院聖徒団团长

芝崎 惠應

〒二〇二〇〇三二
岩手県釜石市大只越町二一九一
TEL〇一九三三三二二六六
FAX〇一九三三三二二五〇

青森県開法寺聖徒団

住職 **工藤 堯幸** 副住職 **工藤 堯慎**
執事 **工藤 堯顯**
護持員 **最上 隆二** 信託委員 **最上 誠規**
寺務部長 **掛村 隆二**

外檀信徒並信行会々員一同

〒〇三〇一四〇三
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元字田五二二
TEL〇一七四二二五二七二二
FAX〇一七四二二五二六〇七

法華寺聖徒団团长

阿部 是秀
靈断師 **阿部 是眞**
靈断師 **菊池 妙栄**
靈断師 **前川 是調**

〒二八〇三〇四
岩手県遠野市宮守町下宮守三一六九一
TEL〇一九八八七三二六六
FAX〇一九八八七三二二七

『心といのちの相談所』
被災者一人一人の
心の復活を祈りつづけております

日蓮宗霊断師会常任理事
妙正寺聖徒団团长

関 龍雄

〒〇七一四二三三
北海道上川郡東川町東町二一六一三
TEL〇一六六八二二二七一四
FAX〇一六六八二二二九一四

日蓮宗霊断師会理事
妙福寺聖徒団团长

野澤 壯監

東日本大震災他種々災害被災地被災者の
復興を心よりお祈り申し上げます

〒三二九一三三二
栃木県さくら市馬場一〇八一
TEL〇二八八二二二〇二二
FAX〇二八八二二二二九九

日蓮宗霊断師会理事
圓融寺聖徒団团长

山口 忠信

〒六七五二二〇二
兵庫県加西市北条町栗田三三八
TEL〇七九〇四二二二一八
FAX〇七九〇四二二〇三九七

長栄寺聖徒団团长

光枝 海元
日蓮宗霊断師会常任理事
光枝 浩生

〒一〇〇〇四〇二
東京都新島村本村三一四
TEL〇四九二一五〇一六八
FAX〇四九二一五〇一六一

日蓮宗霊断師会理事
圓立寺聖徒団团长

中村 公一

〒五一四二二二二
三重県津市高野尾町四五七五
TEL〇五九一三三〇一五五七
FAX兼用

本妙寺聖徒団团长

村口 泰慈

〒七九九一三三二
愛媛県西条市国安四二
TEL〇八九八六六五四〇九
FAX〇八九八六六六一六〇

日蓮宗霊断師会総務局局長
顕忠寺聖徒団团长

松尾 義隆

〒八三五〇一〇一五
福岡県みやま市山川町原町一四一
TEL〇九四四一六七〇五三三
FAX〇九四四一六七〇七〇二
日蓮宗霊断師会総務局
TEL〇九四四一六七〇二九三〇

日蓮宗霊断師会組織局局長
本成寺聖徒団团长

天野 行淳

〒四六五〇〇一四
愛知県名古屋市長区上菅一三〇三
TEL〇五二七七一一七四七四
FAX〇五二七七一一七五七二

日蓮宗霊断師会指導局局長
本典寺聖徒団团长

戸田 教栄

〒二五六〇八二六
神奈川県小田原市酒匂三一一一十七
TEL〇四六五〇四七四八三三
FAX〇四六五〇四九一三五三三

日蓮宗霊断師会伝道局局長
常國寺聖徒団团长

濱田 壽教

〒七二〇〇四一一
広島県福山市熊野町甲一四八一
TEL〇八四一九五九一〇〇〇六
FAX〇八四一九五九一一二〇〇六

日蓮宗霊断師会教宣局局長

松本 惠昌

知見会信行寺聖徒団团长
和歌山県和歌市杭ノ瀬五六一五
TEL・FAX〇七三二四七一八二五二
知見会海禪院聖徒団团长
和歌山県和歌市和歌浦中三二四二八
(顕彰会事務局)
TEL〇七三二四四七一八九〇
FAX〇七三二四九九一四九九六

東日本大震災ご支援御礼

陸中山田善慶寺聖徒团长
三浦 惠伸
(本部理事・総合研究所副所長)

善慶寺・龍王寺
二級霊断師 三浦 歌子
〒二八一三三三
岩手県下閉伊郡山田町北浜四一一
TEL〇一九三二八二二七六五

北上市龍王寺聖徒团长 一級霊断師 三浦 惠導
〒二四一〇〇五六
岩手県北上市鬼柳町鼠川原一七五一二
TEL〇一九七七一二〇一七
FAX〇一九七七一二〇三三
ホームページ: <http://hi-to-navi.net>

日蓮宗霊断師会理事
寿泉寺聖徒団团长

根師 哲朗

〒七二〇〇八三三
広島県福山市水呑町一六一四
TEL〇八四一九五六〇一九八
FAX〇八四一九八二一八九六七

島根県霊断師会

会長 笹部 一真
副会長 堀江 泰誠
事務局 文谷 孝順
役員 一同

日蓮宗青森県霊断師会

会長 飛鳥 玄龍
幹事長 對馬 央丈
宮崎担当 工藤 堯慎
青森担当 伊達担当 葛原 主静

事務局長 工藤 堯顯
山崎 随祥
木立 智大
山田 瀧仙

理事 小野 泰幹
工藤 堯幸
会員三十三名。



日蓮宗霊断師会理事
妙法寺聖徒団团长

牛居 一英

〒五四六〇〇四二
大阪府大阪市東住吉区西今川二二一四
TEL〇六六七〇二二二一四
FAX〇六六七〇二二二〇一〇

日蓮宗霊断師会理事
慶音寺聖徒団团长

副团长 須藤 正裕
副团长 須藤 充康

〒四一九〇一四
静岡県田方郡南町仁田一六四一
TEL〇五五一九七八一四八八
FAX〇五五一九七八一四八八

宮・鹿・沖霊断師会

顧問 片寄 海心
監事 吉田 智雄
会長 吉田 静正
事務局 吉田 憲由
會計 吉田 貴徳
白野 裕子
海野 資子

日蓮宗青森県支部長
本成寺聖徒団团长

副团长 吉田 海心
团长 吉田 静正

〒八八二〇〇六二
宮崎県延岡市松山町一三三三
TEL〇九八二一三三三三三
FAX〇九八二一三三三三三

大分県霊断師会

会長 廣田 学良
副会長 飯盛 義教
監事 杉本 眞誠
事務局長 三ヶ尻 正軌
後藤 一
会員 一同

日蓮宗霊断師会三重県支部長
追分教会聖徒団团长

高鍋 鳳憲

〒五一〇〇八八二
三重県四日市市追分二一五一一
TEL〇五九一三四六三三六七七
FAX兼用

日蓮宗霊断師会組織局組織部長
妙法寺聖徒団团长

三木 一乗

〒五〇一四一〇一
岐阜県郡上市美並町上田二〇八四
TEL〇五七五二七九二〇五五
FAX兼用

日蓮宗霊断師会組織局事業部長
長榮山妙福寺聖徒団

大森 映孝

〒三三九二二二一
栃木県塩谷郡高根沢町亀梨五一四
TEL〇二八一六七六一二四七
FAX兼用

日蓮宗霊断師会指導局指導部長
照恵寺聖徒団团长

品田 祥皓

〒五五〇一〇四
北海道沙流郡平取町柴雲古津二二一七
TEL〇一四五七一一三二二七
TEL〇一四五七一一三二二七
FAX〇一四五七一一三三七九一

日蓮宗霊断師会指導局講師部長
蓮正寺聖徒団团长

飯盛 義教

〒八七九一五五〇四
大分県由布市挾間町下市五三三六
TEL〇九七五八三三〇五四六
FAX〇九七五八三三〇六九八

日蓮宗霊断師会指導局研修部長
妙法寺聖徒団团长

蔵本 知宏

〒六九八〇〇二二
島根県益田市幸町一一一七
TEL〇八五六二二二二二二
FAX〇八五六二二二二二二

日蓮宗霊断師会伝道局布教部長
七面山道円寺(芦屋の七面様)聖徒団团长

飛鳥 玄龍

〒〇三八一三二二
青森県つがる市木造川除栄盛七
TEL〇一七三二四二二二二二
FAX兼用

日蓮宗霊断師会伝道局聖徒部長
龍雲寺聖徒団团长

吉田 憲由

〒八八九二二〇一
宮崎県児湯郡都農町川北三三七二九
TEL〇九八三二二五二二二二
FAX兼用

日蓮宗霊断師会総合研究所新日蓮教学研究部長
顕本寺聖徒団团长

小泉 輝泰

〒二九五〇〇〇二
千葉県南房総市千倉川合六九〇一
TEL〇四七〇一四四一〇六二
TEL〇四七〇一四四一〇六二
FAX〇四七〇一四四一〇六二

日蓮宗霊断師会総合研究所九識霊断法研究部長
妙泉寺聖徒団团长

石黒 泰良

〒四六一〇〇〇五
愛知県名古屋市長区東桜二一六一四三
TEL〇五二一九三二一八四九〇
TEL〇五二一九三二一八四九〇
FAX〇五二一九三二一八四九一

日蓮宗霊断師会総合研究所教育部長
妙親寺聖徒団团长

廣田 学良

〒八七〇〇八三三
大分県大分市上野丘西五五一五
TEL〇九七五五五五〇七〇八
FAX兼用

聖徒の声

我がお寺に歴史あり

宮崎県延岡市に近い、漁港の町・門川町。この静かな一帯も昭和三十年代、創価学会による折伏活動の嵐が吹き荒れた。

宮崎県は特に活動が激しかったところで、当時の日蓮宗寺院のうち、七力寺が日蓮正宗に改宗、本東寺等八力寺は宗門への被害を食い止めるため「大日蓮宗」を開き、日蓮宗を離脱せざるを得なくなった。

内山田カツヨさんのかつての菩提寺、門川町のお寺も例外ではなかった。同寺の総代も改宗賛成派と反対派に別れ、檀家を二分する騒ぎに発展、とうとう日蓮正宗に改宗してしまつたのである。

「お位牌を境内の大きな木の根元に山積みしてあったのが、目に焼き

第三十一回
日蓮大聖人の歩まれた道
鎌倉での修学(その八)



総合研究所
教学研究部長
小泉 輝泰

「此等の経釈等を以て、当世日本国に引向うるに、汝等が奉る所の建長寺、寿福寺、極楽寺、多宝寺、大仏殿、長楽寺、浄光明寺等の寺は、妙楽大師の指す所の第三の最も甚しき悪所なり」(行敏訴状御会通)

鎌倉在中の蓮長が、何処にて何を学んだのかについては、例によつてその詳細を知る術はありません。もちろん天台宗にて出家した学僧ですので、天台系の寺院に身を寄せ学んでいたはずで

蓮長の出身である清澄寺は、天台宗の中でも山門派と呼ばれる門派に属してました。当時の鎌倉天台諸山は、鶴岡八幡宮の別当に就任した隆弁に代表されるように、寺門派が大勢を占めていたようです。分派以来両派の間には確執も多く、それぞ

付いています」と内山田さんが話のように、学会の活動員たちは仏壇や位牌を捨て去った。内山田さんら改宗反対派七十名は、必死の抵抗も虚しく法蔵寺離檀を決意。家の位牌を胸に、大型バスで逃げ込むように本東寺の門をくぐつた。

「先祖をないがしろにするような宗教は、決して本物ではない！」と確信して、日蓮宗の信仰を貫こうとした内山田さんたちを、本東寺の吉田海心団長は快く受け入れた。こうして内山田さんたちは本東寺の檀家となつたのである。



宮崎県本東寺聖徒団
内山田カツヨさん

れの出身僧たちは常に対立した関係にありました。

ところが不思議なことに、後に比較山留学中の蓮長は、対立する寺門派の総本山である三井の園城寺に赴いて

います。何らかの理由により、蓮長は両派の間を比較的自由に往き来できるといふような立場にあつたようです。故に、寺門派が取り仕切る八幡宮でも、一切経の閲覧を許されたのです。

浄土、あるいは禅を学んだ過程に關しては、それこそ伝え聞くところではしか推し量れません。文頭にご紹介した「行敏訴状御会通」やその他色々な御書には、当時の鎌倉で隆盛を誇つた各宗の寺院が見受けられ、時にはその寺を代表する僧侶の名も挙げられています。蓮長はこれらの師僧の講義を見聞し、または直接その門を叩いては教えを請うたのではないでしようか。



大日蓮宗の寺院は、平成になつてめでたく復帰を遂げたが、日蓮宗でいられたことを、心から感謝している。

「本東寺さまに縁を頂いて、本當によかつたと感謝しています。初めは元の檀家の皆さんに対し、引け目を感じる気持ちもありましたが、今ではそんなことも全くなりません。」と内山田さんは明るく話す。今では毎月盛運祈願会に足を運び、俱生神月守を着帯しお題目の信仰のお蔭で「自分自身が朗らかになつた」と思えるのだ。

現在、夫の故・春義さんの後を継いで本東寺始まつて以来の女性総代として欠かせない存在となつていくことが本東寺さまへの恩返しです」と結ばれた。

歴史的な根拠は浅くなりますが、日蓮大聖人の伝説である「註画讃」に依れば、浄土宗の大阿という僧より教えを学んだとされています。その名はかつて法然上人が記した「七箇條起請文」に連署として見受けられますが、人物としての詳細は定かではないようです。

また材木座佐助谷の蓮華寺にて、当時盛んに浄土の教えを弘めていた記主然阿良忠より学んだとも言われています。良忠は関東に浄土宗を弘めたとされる高名な僧で、浄土宗第三祖と称えられる念佛の大家です。はたして如何なるコネがあれば、そのような大人物に直接教えを受けられるのか、大変不思議なことですが、ただ教えを受けるのみならず、一説では良忠より「撰撰本願念仏集」を与えられたと言いますから、驚くばかりです。

いずれにせよ、以前にご紹介した『南条兵衛七郎殿御書』にて、「法然善導等が書きおきて候ほどの法門は、日蓮等は十七、八のときより知り候き」と世の念佛僧等を看破された背景を考えますと、この鎌倉での修学期において、専修念佛に関する真義を修得なされたのでしよう。それを成し遂げるには、相当な知識を持つた高僧よりの手解きを受けたことは、間違いないものと思ひます。

法華経のお話 29



総合研究所主任
塩入 幹丈

無量義経の段十四年一月

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①豊臣秀吉がまだ木下藤吉郎だつた頃

(仮面の忍者赤影OP)
信長の館での、ある年の正月。続々と家臣たちが年賀の挨拶に伺うも、信長の表情は険しく、今にも怒りが爆発しそうな雰囲気。

家臣団に重苦しい空気が漂う中、ようやく信長が重い口を開いて語るには、「昨夜、こんな夢を見た。何処かの戦へと馬に乗って出陣するや、突然馬の足が四本とも折れて、地に投げ出されてしまった……。これは如何なる前触れであろうか」とのこと。

「いやいや、これって凶時の前触れ、カサンドラの予言かよって、部下たちはほぼ一同揃つて思えども、当然口に出せるはずもなし。」

ますます緊張が高まり、もはや信長の怒りも爆発寸前に至つて、忽然と進みでるは、ご存知!後の豊臣秀吉こと木下藤吉郎!

「やや!信長様おめでとうございませう!その夢はこれすなわち、これから合戦にては、常にかち(徒歩勝)関をあげるとのお報せでございますぞ!」

たちまち機嫌が治る信長。家臣一同もホッと胸を撫で下ろし、「藤吉郎殿、助かりましたぞ」と、その頓智に感謝したのでした。

②あわてない、あわてない、一休み、一休み (一休さん)
という訳で、お正月に纏わる秀吉の頓智話なわけですが、これが一般庶民



間での頓智話、たとえば一休さんの頓智話(まあホントは、一休さんは後小松帝の御落胤ですけど...)でしたら、「一休さん...」や、「弥生さん、さよちゃんも...」とか、「秀念さん...」、「い、一休...」と名前を呼び合つていても、そう目くじらを立てることもないでしょうが、武家クラスにおいては、「信長さま」や「藤吉郎殿」なんて会話は、まずありえなかつたんですね。

そうなんです。名前つて本来、うかつに口に出せないくらい、とてもとても大切なものだったんですね...

③あたしのことを苗字で呼ぶな、あたしを苗字で呼ぶのは敵だけだ (袁川潤)
今はただ織田信長と言われてますが、昔の人の名前は本来、寿偈無寿偈無ほどじゃないにしろ、やたらめつたらに長いもの。

信長も本来のフルネーム(一応)は「織田三郎平朝臣(たいらのあそん)信長」。

この場合は織田・三郎・平・朝臣・信長の五つのパーツから成り立つんですが、この内、一番大事なのが実は平と信長の部分。

信長は本當の名、そして平は姓であり、織田という苗字よりも大事なものになります。

④「さようにむずかしい藤原氏の蔓となり葉となろうよりも、ただ新しく今までになき氏になろうまでじゃ」 (豊臣秀吉)
その姓の武士バージョンになつたのが平と源。

だからソガノ馬子、フジワラノ鎌足、スガワラノ道真と読むように、「タイラノ」、「ミナモトノ」と読むわけですね。

武家の頂点として、(事実かどうかはともかくも)信長は平姓を称したわけですね。

で、平家あるところに源氏あり。ホントかどうかは別として「当初は平姓だったそう」で、源の姓を名乗つたのが徳川家康こと徳川次郎三郎源朝臣(みなもと)のあそん家康。源が姓であり、徳川は苗字。本當の名前が家康なわけですね。

信長が平家で家康が源氏。じゃ秀吉はどっちかと、思うところですが、実は秀吉は平家でもなければ源氏でもない。さりとて藤原や菅原、物部等の古い姓でもない、全く新しい姓を名乗つてるんですね。

そうなんです。それが「豊臣」。ホントのところ秀吉は、トヨトミ秀吉じゃなくて、トヨトミノ秀吉と言うべきなんです。



よろこび法話

本来の「布施」とは・・・



日蓮宗断絶会 総合研究所 教部主任
和歌山県海草郡紀美野町龍光寺聖徒團長

松森 孝雄

【「布施」の誤解】

お布施と聞いて、真っ先に思い浮かべるものは何でしょうか？ほとんどの方は「お坊さんに払うもの」という意味で受け取られているのではないのでしょうか？…そう、お坊さんがお経を唱えた『対価』として支払うもの、という意味で捉えられているのではないのでしょうか？

【貧女の「一灯」】

ここで本来の「布施」の意味を考えるにあたり、『貧女の「一灯」』のお話を紹介したいと思います。



お釈迦様の時代、インドは今のようになつていました。その一つ、マガダ国を治めていた阿闍世王がお釈迦様を招待し、説法を請いました。お釈迦様が説法を終え、丁重なる接待を受けた後、自国に帰られようとした時、阿闍世王はその道筋を万灯によつて照らすことを考えました。その話を聞いたひとりの老婆が「私も一灯を献じたい」と思い立ちます。老婆はとても貧しく、物乞いをしながら生計を立てている身でした。その日は自らが持っているすべてを投げ、そのみならず自らの髪を切つて売り、一灯をとすための油を買いました。しかし、物乞いをする身である故に、持てる全財産を投じても手にした油はほんのわずかだったのです。そのわずかな油でもした灯は他の万灯に比べて弱々しくかすかに輝く程度でした。

そこでお釈迦様がおっしゃいます。「その灯は四大海の水によつても、嵐によつても消すことはできない。なぜならば、その一灯は私の法を聴き、多くの人を救おうという大いなる慈悲心を発した老婆が献じたものだからである」と。

【本来の布施、その一】

ひとつは、片手間で「布施」をしているのではなく、持てるすべてを投げ打つて献じているということ。

これは何も全財産を投げうてという意味ではなく、損得を超えた行いこそ本当の布施に繋がるということです。これはお坊さんに対してだけの話ではありません。いつでも、誰でも、どこでもできるのが「布施」なのです。言い古された喩えですが、自分がどんなに疲れていても、目の前のお婆さんが大きな荷物を持って困っていれば手を差し延べるといふのも立派な「布施」なのです。しかし、そこに「見返り」を求めず、ましては「布施」ではなくあります。それは金銭に限ったことではありません。自分がこれを「してあげた」という気持ちから、仮にその後「お礼」を言われず気分を害したとすれば、「お礼」を求めていたことになりません。「見返り」を求めた時点で、それは「布施」ではなく「取り引き」になってしまいます。

【本来の布施、その二】

もうひとつ、この「貧女の「一灯」」は、お釈迦様が法を説かれた「対価」として献じられたものではなく、法を聴いた上に大いなる慈悲心をもつ



て、仏の道に生きようという誓願が伴っているのです。これは、他の宗教、すなわちキリスト教やユダヤ教などと大きく違うところです。他の宗教は、その信ずるところの「神」の教えを指針とすることによって、神が私たちを護るといふ「契約」のもとに成り立っています。ですから、私たちが人間はどんなに頑張っても神にはなれません。対して、仏教は仏の教えに生き、仏の道を歩むことによつて、私たちが仏の境涯に至ることを教えます。そのためには、仏の道に生き、私だけではなく命あるものすべてが仏の境涯にいたることを目的・目標とする「誓願」が伴います。この「誓願」が行いこそ、本当の「布施」なのです。毎月の祈願会においては、「自分のため」「家族のため」「大切な人」のために、前の月の無事に感謝し、その月の安泰なることを願いますが、そこには見返りの気持ちもなく、純粋なる「仏さまの道を歩む「誓願」」によつてお題目をお唱え致しますよう。「布施」にはまだまだいろいろな深い意味がありますが、それはまた次の機会に。

本誌イラスト 小川けんいち

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

正立山 妙法寺番神聖徒団

団長 新聞 信應

毎月1日 10時
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市
三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

安房乃國随一
三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03(3843)6951
FAX 03(3843)6973
定休日 日曜日

北海道運輸局長
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら
どんなことでも!!

車買取のE-ス
1.0166 34-3606

(有)キクチ自動車
〒078-8346
北海道旭川市東光6条6丁目190-100
TEL/FAX 0166-34-3606